

平成 21 年 4 月 1 日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2007～2008

課題番号：19580251

研究課題名（和文） 貧困国農村における農家のリスク対応に関する比較制度論的研究

研究課題名（英文） A Comparative Study of Rural Institutions to Cope with Risk in the Least Developed Countries

研究代表者

福井清一 (FUKUI SEIICHI)

神戸大学・国際協力研究科・教授

研究者番号：90134197

研究成果の概要：

本研究では、従来のフォーマルな農村開発プロジェクトでは十分に考慮されなかった、貧困農村におけるインフォーマルな伝統的農村制度に焦点を当て、カンボジアとインドネシアの農村を対象に実態調査と実験ゲームを行い、利他性、互酬性、社会関係資本などの要素を取り入れることによって、リスクを回避するために形成された農村制度の編成原理を明らかにし、有効な貧困削減プログラムの考案に資するデータの分析と、仮説・理論の整理を行った。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2008年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：農学

科研費の分科・細目：農業経済学

キーワード：リスク、農村制度、利他性、信頼

1. 研究開始当初の背景

一般に、途上国農村における農村開発プロジェクトを効果的にするには、農村の伝統的な社会経済システムの存在意義を理解しておく必要があり、そのため、農村制度の経済学的研究が行われてきた。

本研究で対象とする途上国農村のリスク・プール、リスク回避のためのインフォーマルな制度についての研究は、リスクに脆弱な貧困層がリスクを回避したり緩和するために、農村の社会経済構造の中に埋め込まれてきた仕組みを理解するうえで、重要な研究である。この分野の研究は、ゲーム理論の発

展に呼応し、多くの理論仮説が提起されてきたが、実証研究の成果は、合理的な損得勘定だけで、これらの諸制度を説明できないことを示しており、従来、経済学がブラックボックスに入れてきた、利他性、互酬性、信頼などといった要素をも考慮に入れた人間行動のモデルを提示する必要性に迫られていた。

一方、利他性、互酬性、信頼などの社会心理学的要素の人間行動への影響に着目した行動経済学分野の研究は、近年、目覚ましい発展を遂げつつあり、開発経済学の分野にも、当然応用されるべき段階に差し掛かっていた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、第一に、利他性、互酬性、信頼、および、それと関連する社会関係資本などの、従来、ブラックボックスに入れられてきた諸要素と、貧困農村にける住民がリスクに対応するために利用しているインフォーマルな農村制度（信用・保険制度、小作制度等）との関係を解き明かすために、行動経済学の分野における最近の成果を取り入れ、理論的・実証的分析を行うことによって、農村制度のメカニズムを明らかにすることにある。そして、すでに存在する、リスク対応を目的とした伝統的な貧困緩和の仕組みを利用し、新しいタイプのより効果的な農村貧困削減プロジェクトを創生することが、第二の目的である。

3. 研究の方法

農村貧困層による。リスク対応を利他性や社会関係資本を考慮して分析するには、農家経済（所得、資産、家計内生産行動、就業形

態等）のみならず、世帯特性（世帯員数、家族労働力、年齢、教育水準、男女比等）についての情報が、また、社会関係資本については、各世帯員による親族・近隣住民との付き合い、共同行為への参加についての情報もまた、必要となる。さらに、他人への信頼、利他性、危険回避的性向などの数量的データを得るために、実験ゲームの手法を用いる。

平成19年度には、カンボジアのコンポン・スプー州、タケオ州の低地稲作農村において、貧困ライン以下の世帯が5割を超える貧困農村を選び、農村世帯からの聞き取り調査を実施した。そして、そこで得たデータを用い、農作物の不作や世帯主の病気など、貧困家計へのショック、貧困、社会関係資本などの要素と、児童の健康・栄養水準との関係について、質的選択モデルに操作変数法を取り入れた新しい計量経済学的分析を行った。

平成20年度には、中部ジャワ稲作農村において、農村の家計調査と、地主・小作農を対象とした実験ゲームを行い、地主・小作農の世帯特性、経済状態、危険に対する選好指標についてのデータを収集した。

そして、これらのデータを用い、地主・小作農のリスク選好が、小作契約形態の選択にどのような影響を及ぼしているかについて、質的選択モデルによる数量分析を行った。

4. 研究成果

カンボジア低地稲作農村における実態調査では、農村家計によるリスク・プールの方法として、贈与交換・擬似信用が利用されていること、また、資産保有額や社会関係資本の蓄積が大きいほど、贈与交換や擬似信用への参加が促進されることを明らかにした。

また、農村の相互扶助的慣行や社会関係資

本が、家計所得や児童労働、リスク対応の慣行等への影響をとおり、児童の就学促進や健康・栄養水準の維持に、どのように影響しているのかを、構造方程式を推計することにより検証し、安全資産としての牛の飼養が児童労働を増加させるが、それが、児童の就学、健康・栄養水準に負の影響を与えることはないこと、社会関係資本は、児童の就学、健康・栄養水準に正の効果をもつこと、などを明らかにした。

一方、インドネシア中部ジャワ農村においては、分益小作制度が、地主と小作農によるリスク分担を主たる目的とする制度であるとする、リスク・シェアリング仮説の妥当性について分析を行った。調査地域では、リスク・シェアリング仮説によっては説明できない事実が観察されているが、これを統合的に理解するために仮説が拠って立つ期待効用仮説と代替的なリスク選好仮説であるプロスペクト理論を、実験ゲームの手法を用いて比較検証した。その結果、期待効用仮説よりもプロスペクト理論の方がより良く地主・小作農のリスク選好を説明すること、および、調査地域の分益小作制度は、プロスペクト理論により、より良く理解できることが明らかとなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

- ① 永井俊介、福井清一、高篠仁奈「ジャワ農村における小作契約形態の決定因について—内生性バイアスを考慮に入れた実証分析—」『国際協力論集』第 17 巻 1 号、2009 年、近刊。査読なし

- ② 高篠仁奈、福井清一、ジャンクン・ハンドヨ・ムリヨ「分益小作論における期待効用仮説の妥当性について—実験ゲームによる検証」『国民経済雑誌』第 199 巻 4 号、2009 年、41—54 頁。査読なし

- ③ Miwa Kana and Fukui Seiichi, "Impact of Risk and Kinship Relations on Tenancy Contract Form: A Case Study in Rural Java," 『農林業問題研究』第 171 号、364—369 頁、2008 年。査読有

- ④ Miwa Kana, Han Phoumin and Fukui Seiichi, "Root Causes of Child Labor in Cambodia: Testing the "Luxury" Hypothesis," Journal of International Cooperation Studies, Vol. 16, No. 1, 131-154, 2008. 査読なし

[学会発表]

[学会発表] (計 1 件)

- ① Miwa Kana and Fukui Seiichi, "Does Child Labour Have Negative Impact on Child Education and Health?," A paper presented at the annual meeting of Japanese Economic Association, at Kinki University, 14th–15th. September, 2008.
査読付。

[図書] (計 1 件)

- ① 高橋基樹、福井清一『経済開発論 研究と実践のフロンティア』勁草書房、2008 年 4 月 25 日、382 頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

福井清一 (FUKUI SEIICHI)

神戸大学・国際協力研究科・教授

研究者番号：90134197

(2) 研究分担者

該当なし

(3) 連携研究者

該当なし